

施策の展開 V 「水産業に関する県民理解の促進と地域環境の整備」

～「水産業及び漁業地域の多面的機能の発揮」(条例第8条第1項第5号関係)～

【取組状況・成果】

1 生産から消費までの情報の提供・共有と食育の推進

次世代を担う若年層の水産物に対する理解を深めてもらうため、小学生等を対象として漁協女性部が実施した料理教室等において、水産業普及指導員等が本県の水産業の現状、養殖水産物の生態等について指導しました。

また、消費者に本県水産物に対する理解を深めてもらうため、本県の養殖水産物等を用いた料理教室の開催を支援したほか、食育推進のため、地域食材を活用した給食メニューを開発し、関係者と意見交換を行いました。

さらに、本県の「食」に関わる方々が連携・協働しながら地産地消やブランド化の取組を進めていくための情報交換等を行う場として、「食材王国みやぎ推進パートナーシップ会議」を設置しました。

【平成19年度の主な実績・成果】

(1) 子供達の水産物消費の拡大に向けた取組の推進

イ 地域水産業への理解を促進するため、小学生を対象として女性部が実施した地域水産物の料理教室への支援・指導を行いました。

[水産業振興課及び石巻・気仙沼地方振興事務所]

ロ 学校給食等において地域食材を利用するとともに、伝統食文化の継承を図るため、地域水産物を利用した給食メニューの開発・提案を行い、給食素材メーカーや給食センターと意見交換を行いました。

[水産業振興課及び水産加工研究所]

(2) 積極的な情報提供による流通業者等及び消費者の理解促進

県の食産業振興施策のテーマとして掲げる「食材王国みやぎ」について、農林水産物の生産者、製造業者、小売業者、消費者等の「食」に係わる関係者が連携・協働しながら、それぞれの立場で「食材王国みやぎ」を効果的に実践・発信していくことを目的に、情報交換の場として「食材王国みやぎ推進パートナーシップ会議」を設置しました。

[食業振興課]

【主な事業】

課 名	事業費(千円) [決算額]	事 業 名
食産業振興課	314 [314]	みやぎのおいしい「食」ブランド化戦略推進事業

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
水産業振興課	3,339 [3,202]	沿岸漁業担い手活動支援事業(再掲) 食育推進のための製品開発及びブランド化構成要素の調査研究(再掲)

2 漁村地域の景観及び環境の保全

漁村地域が持つ自然環境や景観を守るため、親水機能に配慮した漁港海岸づくりに取り組みました。

【平成19年度の主な実績・成果】

(1) 親水機能に配慮した漁港・海岸づくりの促進

漁港環境整備事業では、松島町磯崎地区において緑地整備・親水護岸等の整備を行っています。

この地区は、日本三景の一つである『特別名勝松島』に位置し、多くの観光客が訪れていますが、地区周辺には、親水施設等の海洋性レクリエーションに対応する施設がなかったことから、当該環境整備事業により、親水護岸、散策施設等の整備を図り地元漁業者と周辺都市住民との交流・憩いの場を創出するものです。

[水産業基盤整備課及び仙台地方振興事務所]

※平成19年度実績(県事業)

磯崎漁港(親水施設) 護岸 93m

(2) 漁業系廃棄物の適正な処理とその普及

仙台湾で大量に発生したヒトデ対策として、回収したヒトデの有効利用を図るため、たい肥化実証試験を行いました。

[水産業振興課、水産業基盤整備課、仙台・石巻地方振興事務所、水産研究開発センター、水産加工研究所及び畜産試験場]

【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
水産業振興課	890 [870]	ヒトデの有効活用に関する研究(再掲)
水産業基盤整備課	140,000 [101,800]	漁港環境整備事業

3 快適で住みよい地域環境の整備

災害に強く、快適で豊かな漁業地域の生活を実現するため、漁港海岸の保全施設整備、下水道施設等の生活基盤の整備及び海岸を活用した公園等の憩いの場づくり等、漁業地域のインフラ整備を推進しました。

【平成19年度の主な実績・成果】

(1) 漁港及び海岸の防災施設整備の推進

今後高い確率で発生すると予想されている宮城県沖地震等に対応するため、海岸保全施設の整備を推進しました。

[水産業基盤整備課及び気仙沼地方振興事務所]

※平成19年度実績

気仙沼漁港海岸ほか6か所で護岸や陸こうを整備

(2) 下水道施設等生活基盤の整備、海岸を活用した公園等のインフラ整備の推進

塩竈市の野々島は、現在生活排水が未処理のまま海域へ放流されているため、今後、漁業生産や観光資源に与える影響が懸念されています。

そのため、快適な生活環境の創出を目的として、塩竈市が実施する集落排水処理施設の整備を支援しました。

[水産業基盤整備課及び仙台地方振興事務所]

【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
水産業基盤整備課	917,300 [800,146]	海岸保全施設整備事業 漁業集落環境整備事業

4 都市や農山村との交流促進

県民に本県水産物のサポーターとしての役割を担ってもらうため、都市住民等を漁村地域に招き、水産業への理解の促進を図りました。

【平成19年度の主な実績・成果】

(1) 漁業地域における都市住民との交流促進

県単位で組織する漁業青壮年・女性団体が実施した農山村担い手団体及び都市住民との交流事業に対して指導・支援を行いました。

[水産業振興課及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

(2) 海や海洋生物とのふれあいの促進

普段あまり海に接する機会が少ない県内の小学生とその父母を対象として、漁業の仕組みや魚介類の知識を深めてもらうための体験学習を開催し、水産業への理解の醸成を図りました。

[水産業振興課及び水産研究開発センター]

【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
水産業振興課	2,550 [2,492]	沿岸漁業担い手活動支援事業(再掲)

○「食材王国みやぎ推進パートナーシップ会議」第1回大会開催

(関連事業：食育・地産地消推進事業、みやぎのおいしい「食」ブランド化戦略推進事業)

1 経緯

県が食産業振興施策のスローガンとして掲げる「食材王国みやぎ」を推進する「パートナー」として生産、製造、小売、実需者、市町村、消費者、マスコミ等「食」に関わる皆様が連携・協働しながら、それぞれの立場で「食材王国みやぎ」を効果的に実践・発信いただくことを目的に、情報交換等の場として「食材王国みやぎ推進パートナーシップ会議」を設置し、会議参画者が一同に会す「第1回大会」を平成20年2月14日に開催しました。

2 第1回大会（平成20年2月14日開催）の概要

・出席者296名（パートナー：217名、県関係者：50名、傍聴者：29名）

・基調講演

テーマ 「地産地消が地域を変える」

講師 小泉武夫氏

（東京農業大学教授）

（全国地産地消推進協議会会長）

・「食材王国みやぎ『基本理念』」提唱

【食材王国みやぎ基本理念】

○澄んだ海・肥沃な大地・豊かな森で育まれた宮城の「美味しさ」や「旬」と「鮮」を大切にします。

○素材を活かす技に磨かれ、宮城の食文化が培う「逸品」にこだわります。

○食の安全・安心の確保を基本とし、信頼に応えるものづくりに徹します。

・「食材王国みやぎ地産地消の日」（毎月第1金曜日から3日間）の提示

・「地産地消」「ブランド化」の取組発表

宮城県農業協同組合中央会、塩竈市水産振興協議会、はたけなか製麺（株）

みやぎ生活協同組合（社）宮城県調理師会、みやぎの食を伝える会

3 今後の取組

・会議への参画者を広く募り、「食材王国みやぎ」の一層の普及浸透を図るとともに、平成20年4月から開始する食材王国みやぎ「取組宣言」、「応援宣言」制度を通じた「食材王国みやぎ」ロゴ使用等参画者と連携を図りながら「地産地消」、「発進力強化」を効果的に進めていきます。

・今年度は、9月8日（月）に第2回大会を開催予定です。

この中で「地産地消」や「ブランド化」の先進的、モデル的な取組の表彰とその事例発表を行うことにしています。

（食産業振興課）

